

LAN・CAFÉ

だより



January 2017

2017年1月号

突撃インタビュー

こんにちは！皆さんは冬休みをどう過ごされていますか？寒い冬は、語学教育研究室で世界のいろいろな国を舞台にした映画のビデオを借り、家でほっこりコタツに入ってみかんを食べながら、映画鑑賞はいかがでしょうか？語学の勉強には、やはりその言葉が話されている文化を知ると俄然意欲が湧いてきますよ！ああ面白そう、こんな所に行ってみたい、こんな風景を見てみたい、こんな食べ物を食べてみたい、etc.。映画鑑賞では、日本語字幕で良いので音声は外国語にして、その国の風景や人物ややり取りの様子を、目で見て・耳で聞いて異文化を感じましょう。異文化を知ることでああなたの心の扉を開放しましょう。さて今回も素敵な先生方にお話しを伺いましたのでご紹介します。



初めは Language Café でもおなじみのフランス語の Oliviero 先生です。先生は3年前から愛知大学で教えてみえますが、ずっと以前にも来日しており、その際は資格がなかったため語学学校でフランス語を教えられて、その後、フランスに戻り教授法関連のマスター（修士）を取られ、その次にタイで4年間、フランス語をタイ大学やフランス系の専門学校などで教えてみえたそうです。そして愛知大学での職を見つけ来日されました。先生は、大学卒業後は、イギリスで英語教授法も学

んだため、英語も教える資格をもってみえるので、タイでは英語もフランス人に教えてみえたそうです。日本での印象は、友だちと過ごしたり、美味しい食事を楽しんだり、色々な事を学ぶのが楽しいそうです。日本文化も大好きなので再来日したわけですが、現在、合気道を習っており、日本の伝統的武芸のすばらしさや雰囲気、そして日本人を体現する師匠の凛とした態度などに憧れるそうです。以前書道も習っていたが、それは少し難しかったとの事、ただ日本語も少しずつ習っているそうです。日本人学生は、タイなどと比べるとやはりややシャイな学生が多いとか。ただ、フランス文化に憧れる生徒もおり、フランスへの短期留学に関心のある学生が多いのは嬉しいとのこと。先生はご担当のクラスでは、リスニングやスピーキングを中心に指導されていますが、日本人の先生からある程度、基礎を学んでから先生のクラスで学ぶためか、基本的なことを身につけている学生が多く、女子の方が男子の2-4倍くらいいるそうです。ただ、残念なことに有期雇用のため、数年したら他の大学を探さないといけません。日本大好きな先生は、ずっと日本で仕事をしていきたいそうです。ただ、昨今は、日本の大学は英語教育には力を入れているものの、それ以外の外国語に対してはあまり積極的に進められなくなっている面もあり難しい面もあるとの事。やはり、英語はビジネスなど実利的な面と結びつけて考えられており、語学の教養としての面が過小評価されつつある、という点では、私も同意できました。また、フランスの大学との交流のため協定締結を考えた際に、日本ではトップダウン型の煩雑な手続きが必要で、しかも留学生は名古屋に行く傾向があり、豊橋キャンパスの学生の交流にはつながらないため、諦めてしまった経緯もあるとか。豊橋キャンパスは広いにも関わらず外国人留学生が少ないので、これは非常に残念ですね。

次は中国語の三野先生です。先生のご専門は中国の古典文学、特に詩です。高校の時に漢文の先生が漢詩を中国語で読んでくださり、その言葉の響きの美しさに感銘を受けました。それで東京大学の文Ⅲ（文学部）に進学し、中国語と中国文学を本格的に学ぶようになったそうです。博士課程の時に中国に留学し（江蘇省の南京大学）、江南地方を中心に中国の各地を旅行しました。その時に身につけた語学力が、現

在の土台になっているとのこと。でも日本で普通に生活している時はなかなか中国語を使う機会がなく、専門の学者が多く集まる学会などでしか話せないのが残念だそうです。

先生は1997年から愛大で教え始め、今年度でちょうど20年になります。愛大に来られたばかりの頃は主に中国文学を教えていましたが、現在は専攻がなくなったため、語学を中心に教えておいでです。担当は1年生の入門中国語と基礎中国語で、それぞれ30人ほどの学生を相手に指導にあたっています。中国語の学習のポイントは、やはり発音にあるそうで、特に①4通りの声調、②単母音と複母音、③そり舌音などの



子音、④無気音と有気音の区別、だそうです。先生によると、中国語の魅力はその音楽的な特質にあるそうです。先生ご自身も音楽が大好きだそうです。若い皆さんにも、是非理屈だけでなく感覚的にも楽しみながら中国語を身につけてほしいとのことでした。なお、1年生で単位がとれず、2年生以上になっても再履修……で来る人がいますが、3年4年にもなると就活や卒論にも取り組まねばならず、負担も大きくなるので、なるべく1年生の時にしっかり勉強して単位を取得してほしいそうです。先生によれば、中国という国はなかなか一筋縄では行かないけれども、過去の中国文学の卒業生の中には、中国に留学したり、中国系の企業に就職したりした学生もいるとのこと。好むと好まざるとにかかわらず、大昔から日本と切っても切れないつながりのある国なので、若い世代の人たちに少しでも多く中国の魅力を知ってもらいたいと話してくださいました。









最後は英語担当のローラ日下先生です。先生はアメリカで生まれ育ちましたが、大学3年生の時に、交換留学として早稲田大学にみえ、その際はアメリカ人の友だちもいたため、あまり日本語が習得できなかつたのが悔しく、卒業後に奨学金をもらい2年間の留学予定で愛知にきたそうです。その際は、英語教育より日本の公衆衛生や環境問題に関心があり、関連する施設を訪問し調査研究されていたそうですが、その間に今のご主人と出会って結婚することになり、帰国を取り止め、それ

で日本に住むことになりました。結婚後、貿易会社に数年間勤めた後に、お子さんが生まれしばらく子育てに専念。そして1988年にたまたま愛知大学でオープンカレッジの講師のお仕事があり、愛知大学との縁ができました。その後、修士をアメリカに取りに行かれて1999年に専任教員となり、今年で17年目だそうです。この間、3人のお子さんを成長させつつ、テンプル大学にてドクターも取られた努力家です。先生によると、愛知大学の学生は、昔は文を読めても話そうとなかなかしない学生が多かったけれど、最近、比較的積極的にしゃべるようになってきているが、ただ文の基礎が危うい面もあるとか。教えられている生徒さんには英語が得意から苦手まで色々な学生さんがいるそうですが、やはり英語が好きな学生さんは伸びるそうです。学生さんに伝えたいことは、学生の中に、ぜひ自分が自信を持てるものを何か一つ見つけて欲しい、それが英語力とまではいかなくても、例えば状況に合わせて適切に対応する力や、仕事場などで役立つ対人スキルなど、幅広い意味でのコミュニケーション力を身につけて頂きたい、ということでした。

2017年1月

LANGUAGE・CAFÉ 5限の部 プログラム

日	月	火	水	木	金	土
EC=English Café CF=Café français LS=Language Café Special						
1	2	3	4	5	6 EC	7
					Review Farewell and  Peter Lyons	
8	9	10 CF	11 EC	12	13	14
		クリスマス!!! (伝統とシャンソン)  Régis Oliviero	Group Assignment and Discussion  Daniel Devolin			
15	16 EC	17 CF	18 EC	19	20	21
	Reflection  Michael Boyce	口頭筆記テスト  Régis Oliviero	Group Assignment and Discussion  Daniel Devolin			
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

LANGUAGE・CAFÉ 昼休みの部 : English Café 月・火・水 中文茶座 火 Café français 金

LAN・CAFÉ だより 2017年1月号(第8号)

WEB版 URL :

<http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/kikanshi.html>

2016年12月28日発行

発行 : 愛知大学豊橋語学教育研究室

〒441-8522 豊橋市町畑町1-1

TEL : (0532) 47-4170 FAX : (0532) 47-4184

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken>